

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101003		
法人名	NPO(特定非営利活動)法人 まごころサービス松江センター		
事業所名	グループホーム まごころの家・さいか		
所在地	島根県松江市古志原5-13-69		
自己評価作成日	平成25年11月26日	評価結果市町村受理日	平成26年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	x.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=327
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成25年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年2月27日に6年間慣れ親しんだ雑賀町を離れ、古志原5丁目の住宅地に新築移転してから3年が経とうとしています。地域住民の一員として自治会に加入し、自治会活動や地域の行事にも積極的に参加したり、ホームの行事にもご近所の方に参加して頂いたり、地域との交流を大切に活動しています。また、事業所が開所してから9年が経ち、入居者の半数以上が5年以上の入居年数になります。日々安心・安楽に過ごして頂けるよう支援に努め、“その日その日をご利用者にとって最良の日となるように支援して行く”をモットーに、職員一丸となってご利用者本意のケアを追求し、日々努力しております。昨年は、ホームで「看取りケア」をさせて頂きました。今後も、常にご利用者と寄り添い、ご家族に信頼して頂けるケアの実践を行ってまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が健康で、不快な思いをしないように、嬉しい事、楽しい事が感じられるように、そしてその日その日が最良の日だったと思うことができるように、との思いで笑顔で日々のケアに取り組んでいる。利用者の状態がだんだん重度になってきていて支援方法を運営推進会議等で話し合ったり、「食べる事は如何なる時でも楽しみ」と言う考えのもとに食事は全て手作りで提供し、看取りに立ち会う時も「出産の喜びと同じくらいの気持で見送る事ができるような支援」を模索するなど、常に理念に沿ったケアの実践に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念のもと、事業所独自の理念を作り、職員会議等で都度「理念に基づいたケアを行う」という視点で確認し合い、ケアに活かしている。	重度化に伴い利用者の要望を言葉で聞くことが困難になってきている中、利用者に寄り添い「声なき声」を聞くケアをしたいと、会議などで理念を確認し合い実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として、自治会に加入している。毎年恒例になっている夕涼み花火大会に、ご近所の子供達とご家族にも参加して頂いた。又、ホームで出来た野菜をご近所へ持って行き、喜んで頂いた。	積極的に地域の人と関わり、溝掃除や草取り、「天神市バザー」などの地域行事や、事業所行事を通し交流している。美容部員に来て貰いお化粧して貰うなど、地域の人との関係が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、ホームでの認知症ケアの取り組みを報告し、意見交換や情報交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方2名に推進員になって頂き、2ヶ月に1回の会議に参加して頂いている。ホームでの取り組みを報告する中で、貴重なご意見を頂き職員間で共有し、ケアに活かしている。	利用者の状況や活動を報告し、情報を得たり意見交換をしている。会議に合わせ、利用者や職員と一緒にうどんを作る場面など生活ぶりを見て貰い、事業所をより理解して貰っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に、運営推進会議の場で報告、相談をさせて貰っている。又、問題が生じた時など、市の介護保険課に相談させて貰っている。	困ったことがある時には相談し助言を得ている。運営推進会議には決まった人に参加して貰えるので意志疎通がとりやすい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議にて、外部研修報告や内部研修を行い、話し合いを行っている。日中は玄関の施錠をせず、帰宅願望を訴えられるご利用者の対応としては、思いを抑制せずに受け入れ、外出等行い支援している。	精神面への抑制をしないように職員会議で意志統一を図っている。突発的な外出希望や突然の行動場面でもそれなりの理由があると考えて対応し、身体拘束をしないケアをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて、外部研修報告や内部研修を行い、話し合いを行っている。お一人お一人の人格を尊重し、常に敬意を持った言葉掛けや態度をスタッフ全員が意思統一し、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、行政に相談しながら、ご家族と成年後見制度について話し合い、活用出来る様に支援を行った。又、これを機に職員間で成年後見制度について学ぶ機会を持った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前から、ご本人とご家族にお会いする機会を出来るだけ多く持つ様にし、又ホームにも可能な限り来て頂く機会を持っている。又、契約に関しても話し合いを多く持ち、納得して頂ける様努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の言動からその思いを察し、ご利用者本意の運営を心掛け、又ご家族の面会時やカンファレンス時には意見、要望をお聞きし運営に反映させている。又、ご家族にもホームの行事に参加して頂いている。	日常的に利用者、家族の声を聞くことに努め、訪問時や、家族にカンファレンスに参加して貰い、意見をサービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員が気軽に気付きや意見、提案が出来る様に、コミュニケーションを図っている。提案された意見は、管理者会議等に図り可能な限り反映させている。	会議以外でも自由に意見が言えるように職場環境作りに配慮している。クッション、座布団等も既製品を買うのではなく利用者に適した物を手作りする等、職員の声を反映させながら利用者の生活を支えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通して報告を受け、常時話し合いを行っている。毎月管理者会議を行い、職場環境・条件の整備等についても、話し合いを行い改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者を通して都度報告を受けたり、毎月職員会議に参加し、又隔週で昼食を一緒に食べる事で、職員一人一人のケアの実際と力量を把握している。外部研修にも、積極的に参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの行事に参加したり、施設見学や実習を積極的に受け入れ、気付きを頂いたり情報交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前から、ご本人と出来るだけ多くのスタッフがお会いし、状態を把握した上で話し合い意思統一を図っている。サービス利用後も都度カンファレンスを行い、ご本人が安心して過ごして頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的カンファレンスを行い、そこでご家族の要望等をお聞きし、ケアに活かしている。毎月ご家族へ、1か月のご様子をお手紙にし報告している。又、状態の変化等があればその都度報告を行い相談し、支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態、ご家族の要望等をお聞きした上で、時に訪問看護師に相談したり、場合によっては介護福祉用具業者とも相談したりし、ご本人にとって安心・安楽に過ごして頂ける様、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の出来る事を把握した上で、その時のご利用者の状態に応じてご利用者の思いを尊重し、ご利用者が快く持っている力を発揮して頂ける様な支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご家族へご本人の様子を密に報告し、信頼関係を築いて行ける様に努めている。外出を希望されるご利用者には、定期的に自宅等の外出支援をご家族と一緒にやっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者お一人お一人の思いを聞きながらご家族と相談し、自宅や生家へ外出したり、電話や手紙を利用して遠方のご家族や馴染みの人との関係作りの支援に努めている。	「さいか通信」には写真を載せ、担当者が利用者の様子を添え書きして家族、知人に送付し、利用者との関係を大事にしている。自宅への外出や電話の取次ぎ等支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がご利用者のその時の状態を把握し、孤立しない様配慮したり、ご利用者同士と一緒に作業が出来る様に工夫したり、ご利用者お一人お一人を常に観察し支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者(死亡)ご家族へホームの通信をお送りし近況報告を行い、時々ホームにも来て頂きお話する機会がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人の思いを尊重し、孤独にならない様に職員は常に意識し、寄り添うケアに努めている。状況に応じて、個別での関わりを持ちながら思い、心情を汲み取る様支援している。	利用者に寄り添うケアを心がけ、言動や表情、過去の話、訴え、要望等から思いを汲み取り笑顔を引き出すケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族等の面会時、今迄の生活歴や周辺状況等、新しい情報も収集して共有している。又、馴染みの道具や、写真等も自室に持ち込んでもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況、身体状況の記録により把握し、又申し送り時等、新しい情報も共有することで、お一人お一人の能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別のケアプランチェック表を毎日チェックし、より良い生活が送られているかモニタリングすると共に、ご家族、スタッフ参加のカンファレンスで双方からの意見を出し合い、プランに活かしている。	利用者、家族の意向を取り入れ、一人ひとりに合わせた細やかな内容でプランを作成している。「ケアプランチェック表」を毎日確認し、プランに基づいたケアができていないか振り返っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事摂取量、排泄状況、服薬確認等記録し、日々の暮らしの経過記録、連絡ノートの活用等により、的確な情報を共有している。状況の変化は、介護計画の変更に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅に帰りたい思いがある方には、自宅への外出支援、誕生日のお祝いのご家族も一緒に行っている。入院時は、頻回に面会し病院側と話し合いの上、食事介助等できる介助を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	陶芸教室や民謡クラブなど、ボランティアの方の協力を得て、楽しい時間をもうけている。又、運営推進会議に地域の方や介護相談員にも参加して頂き、ホームでの生活の様子を見て貰い気付きを頂き支援に活かしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医、あるいはご家族希望のかかりつけ医と連絡、報告相談を都度行い連携を図り、必要時には、受診支援も行っている。又、救急時、かかりつけ医に総合病院の紹介も得ている。	希望するかかりつけ医に受診できるように支援している。内科、歯科、皮膚科の往診があり、緊急時にも適切な医療が受けられる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約している。週1回の訪問時、バイタルチェックとお一人お一人の状況を報告し、医療相談を行っている。24時間オンコール体制で緊急時も連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、職員が頻回に面会に行き、ご本人にとって馴染みの顔が見えることで安心感を持って頂き、場合によっては食事介助等できる介助を行い、早期に退院出来る様、病院側と連携を取りながら支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては指針を策定し、ご家族等と話し合いの場を状態の変化に応じて密に行い、意思確認を行いながら進めている。また、主治医や訪問看護師等の医療連携も密に行いながら、重度化や終末期の支援をチームで行っている。	必ず直面する課題と捉え、利用者の誕生日に本人、家族の意向を確認している。状態変化に合わせて家族と話し合い、医師、看護師等関係者と連携して対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議にて、急変や事故発生時の対応について確認し、話し合いを行っている。消防訓練時、消防署の指導を受け、応急手当や初期対応の確認や実践を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練時、火災時は勿論の事、地震や水害等の災害時の避難方法等についても、消防署より助言を頂き、シミュレーションを行っている。	定期的な訓練を行い、地震や水害などに対する避難方法も学んでいる。水、食料品も備蓄し、拡声器も備えている。地域との関わりについて今後検討する考えを持っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の人格を尊重し、常に敬意を持った言葉掛けや態度を都度確認し、職員全員で意思統一した対応が出来る様支援している。又、居室の入口にはカーテンを取り付けプライバシーの保護に留意している。	利用者を人生の先輩として敬い、対応の仕方を職員会議で話し合い共有して実践に繋げている。排泄の失敗時にも他の人にわからないようにさりげなく対応するように気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いや希望を日常的に把握できる様な言葉掛け、関わり方を心掛け、その時に表出されたお気持ちを優先して支援している。言葉に表せない気持ちや表情仕草で汲み取る様心掛けて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日常の生活スタイルはあるも、それにとらわれずその日のご利用者の状態や思いを把握し、臨機応変に対応し、希望に沿えるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節毎に、ご本人の好まれる衣類やその人らしい衣類を、ご家族あるいは、職員が準備し着て頂いている。また、2ヶ月に1回、移動美容車を利用し、個々に合ったヘアスタイルをお願いし、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられる食材を献立に取り入れ、飲み物やフルーツ、お菓子等も種類豊富に、「食」を楽しんで頂けることを優先に考えて支援している。また、包丁を使っての調理や食器拭き等、出来る力を活かしてもらっている。	「食事」を大切な取り組みと捉え、旬の食材を使い、見た目も楽しめるように献立を工夫している。利用者も皮むき、食器拭き等できることを行い、桜餅を作ったりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事については毎食食事量を記録し、飲水量については状態に応じて記録し、把握してご利用者の状態の変化に応じた支援を行っている。又、咀嚼、嚥下状態に応じた食材の形態等を工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア(義歯磨き)を行い、夜間は毎日義歯を洗浄剤に浸けている。口腔内の不具合がある時は、ホームの協力医の歯科医に相談し、必要時は往診して診てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一覧表に一人一人の排泄状況を記録し、排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。全介助の方もトイレでの排尿・排便の介助を行っている。細目に洗浄を行い、スキントラブルの予防に努めている。	利用者の排泄パターンを把握して機能に合わせて介助し、トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝飲むヨーグルトを飲んで頂き、バランスの良い食事と水分補給を心掛けている。毎日、棒体操等運動を行い、また適宜腹圧マッサージを行い、腸の動きを良くしてスムーズな排便に繋がる様に支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2日を目安に、またご本人の希望とその時の体調に合わせて入浴している。脱衣場、浴室共に冷暖房があり、快適に入浴して頂いている。入浴を拒まれるご利用者にも、気持ち良く入浴して頂ける様に、日々ケア検討を行っている。	利用者の希望や身体状況に合わせて柔軟に対応している。風呂上りに飲み物を用意する等、入浴が楽しめるように利用者の気持ちを考えて工夫し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度管理やシーツを細目に洗濯し、気持ち良く休んで頂けるようにしている。夜間の睡眠状態を考慮し、一人一人の体調を観察しながら、日中の様々な活動を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬剤情報をファイルして、職員がいつでも見られる様にしている。また、連絡ノートを活用し職員全員で情報を共有し、ご利用者の症状の変化を見逃さない様、常に観察し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一般的な家事活動や、午前中は体操、歌等のアクティビティーを行い、ご利用者の笑顔が引き出せる様な支援を行っている。また、個々の生活歴に合わせた支援(工作、陶芸教室等)をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望がある時は、ドライブに出掛ける等速やかに対応している。その日の天候や状況(催し物等)に応じて、外出支援を行っている。年に数回、ご家族を交えた、ご利用者全員参加の外出も行っている。	近くの公園へ散歩に行ったり、お菓子屋さんへ和菓子と煎茶を飲みに出かけたりしている。花見や紅葉見学等、遠出する時は家族の協力を得ながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金をお預かりし、事業所で管理している。外出時には、ご本人の欲しい物(お菓子やお土産等)をご自分で購入してもらえる様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にいらっしゃるご家族からのお電話では、ご本人に代わり声を聞いて頂き、電話での会話が難しい時は職員が間に入り対応している。また、年賀状を書いて頂いたり、ご本人の希望によっては、職員が代筆している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月季節の飾り付けをし季節感を感じて頂き、ご利用者の作品や写真を飾って、安らぎと楽しみのある雰囲気作りを心掛けている。食事の時のテーブル、椅子やトイレの便座の高さ、洗面台等ご利用者一人一人の状態の合ったものを工夫し提供している。	松ぼっくり、枇杷の葉、綿を使って作った季節が感じられるタペストリーや貼り絵、行事の写真が飾られている。テーブルは場面に合わせて配置を換え、利用者が集まりやすいように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その場面場面でテーブルを動かし、お一人の空間を作ったり、ご利用者同士が会話を楽しまれたり出来る空間作りを行っている。また、ご自分の好きなソファで寛がれるご利用者もいらっしゃいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼット以外は、ご自分の馴染のタンスやご家族と一緒に寛げるソファを置いたり、ご家族との写真やご本人の作品、お好きな人形(ぬいぐるみ)等、ご利用者一人一人の特徴がある居室となっています。	テレビ、好きな動物や家族の写真、洋服掛け等、馴染みのものを持ち込んで貰い利用者に合わせた居室になっている。定期的に居室の様式替えに来る家族もあり、居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動時、出来るだけ車椅子を使わない様に、また、安全にトイレでの排泄が出来る様に、必要な個所に手すりを付け、自立支援に努めている。		